

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のサービス展開の為、さん愛の理念を作成している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼等で唱和する事で1人ひとりの意識を高め、毎日のケアに生かしていけるよう心掛けている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来訪される方々が見える場所に理念を掲示し、面談等の際には理解を求めているようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々が気軽に立ち寄って頂けるよう、交流会を行い親交を深めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の神幸祭や納骨堂の掃除への参加し、交流を深めている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者のいる家庭からの相談や心配事には、その都度対応する様心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行う事により、日常サービス提供を客観視でき、現状を把握し課題を見出せ、スタッフミーティングで話し合い改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や利用者家族の参加により、定期的に推進会議を開催し、施設での取り組みや現状報告等を行っている。皆様の意見を取り入れサービスに生かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事あるごとに介護保険課の窓口に行き、意見交換を行ったり助言を頂き、サービスの向上に生かしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常的に学ぶ機会が少ない為、職員の勉強会を行い理解を深めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のケアの中で、何気なく行われる虐待について、話し合いを持ち虐待防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に解りやすい説明を行うように心掛け、その利用者や家族の不安や疑問に対し、常に配慮している。		契約の際は、今後も利用者や家族の立場に立った、説明を心掛け、家族の意見を取り入れ実践している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に意見や不安・不満・苦情を言いやすい雰囲気や環境作りを行い、傾聴を心掛けている。意見等に対しては、その都度、会議を開き検討している。		家族会を年間に2～3回行い、家族との信頼関係を構築している。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月さん愛新聞を発行すると共に、家族の面会の際に日々の暮らしぶり等の現状報告を行い、困っている事や生活状態の変化時等は、その都度電話連絡を行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が、操舵苦情があればその事に対し、速やかに対応している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な話し合いの場を設け、職員の意見や提案に協議し必要に応じて、事業所の運営に反映している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者やその家族の要望に対し、出来るだけ対応している。その為、職員の調整を行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員との関わりを大切に、固定した関係を作らず皆で仲良く過ごす環境作りを行っている。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の機会を創出し、積極的に取り組んでいる	職員1人ひとりの能力が活かせるよう、職場環境を整え不安等には、直に相談や助言する配慮を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者1人ひとりに安心と尊厳のある生活を提供するため、そこに関わ職員の意識の向上を常に図っている。		今後人権について勉強会を行ってきたい。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加する機会を設け、職員の資質向上に努めている。		今後も研修等に積極的に参加したい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、他事業所との交流を深め、情報交換を行い、他事業所のサービスの実際を知ることにより、見習うべき点は積極的に取り入れて行くよう努めている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃より職員間の話し合いの機会を確保し、悩みや不安をお互いに打ち明け易い関係づくりに努めている。懇親会や慰労会を開催し、職員同士の交流を図っている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の自己研鑽に対し、実績に対する評価を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学、面談等を通じてゆっくり話す時間を設け安心感を持って頂ける様に努めている。本人が何を求めているかを把握し、どのような対応をとれるのかを検討し、本人の希望に合ったサービスの提供が出来るよう努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来所時に、現在の一番の心配ごとを中心に、ゆっくり傾聴し家族の抱える思いを受容するように努め今後の事を含めて一緒に検討しアドバイスを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際等に、現在の状況を十分に傾聴し、入所の必要性がない場合も含め、様々なサービスがある事を説明している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決まった後は、何回か体験宿泊をして頂き、雰囲気慣れて頂き無理のないよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活が一緒に始まり、一緒に経過するという生活スタイルを続けている事により、得意な事を生かしながら生活している。		人生の先輩である事を職員がしっかり意識し、尊厳の気持ちを持ち支えあう関係を大切にしよう今後も、取り組んでいく。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	問題や心配事を家族と共に考える事で、機能向上を目指し一緒に喜びあえる関係を築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者や家族の今までの生活に着目し、本人や家族の意向の違いなどを十分に配慮しながら支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活が一変した状況の中で出来るだけ混乱しないよう、家族や知人の訪問を要請すると共に時には一緒に外出ができるよう援助している。		家族の希望で外出や外泊を行っている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に過ごす時間や一緒に行う事で、より良い関係づくりを築いている。その為、助け合いの場面なども頻繁に見られる。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居や入院等で退居となった場合でも「いつでも相談事等があったら来て下さい」と伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		職員が全員情報を共有できるよう、アセスメント用紙に記入し把握に努めている。
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族から要望があった場合は、話し合いが必要な時は十分話し合い要望や意向に応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署による避難訓練や行政区の清掃ボランティア等に参加している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や必要性を聞いて訪問理美容サービスや訪問歯科を活用し支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在特に行っていない。介護予防の利用者がいない為、地域包括センターとの協働はないが、今後機会があれば関係を築い。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者や家族の意向に合わせた医療機関との連携を図り、病状の変化等に対しては、主治医との連携を図っている。		月2回内科医と月4回歯科医の往診を受けている。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の受診が必要な場合は、家族に相談し受診を行い主治医には詳細に相談するなどして、治療が必要な状態の場合は継続して支援する。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日頃から健康等管理とうに配慮しているが、不安な状況が発生した場合は看護職に相談している。		毎週訪問看護による個々の健康管理を行って貰っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、利用者の情報提供を行っている。主治医・家族・病棟の看護師との連携を図りながら、早期退院に向けての協力体制を取っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人及び家族の意向を踏まえ様々な状況について話し合い、終末期についても聴取している。主治医とも連携を図っている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末ケアの実績はないが、今後事業所でも終末期ケアに向けて、本人及び家族の意向を尊重しながら主治医とも相談し、その都度協議し支援していきたい。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り先の関係者に十分な情報提供を行い、必要に応じて話し合いを持つ様に努め、利用者が安心できるよう支援している。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのほこりやプライバシーを尊重し自尊心を傷つけない配慮をしている。個人情報に関してhあ、守秘義務の徹底を図っている。		職員がその都度対応できるように心掛けている。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との対応は、一人ひとりに合わせた話し方や本人の思いが尊重する事が出来るように心掛けている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、常に利用者を優先し、入浴やレクリエーション等を参加しなくても、無理強いをせず本人の気持ちを大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみに対する本人のこだわりを大切に、納得し満足されるよう努めている。又、外出の機会を多く持つことで自身でも気を配れる様になっている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況や好み食事携帯を考慮しながら、栄養バランスに配慮した食事に努め、配ぜんや片付け等を職員と共にやっている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒や喫煙については、長年の生活習慣でもあり、抑制はしないを原則としている。おやつも食べたい物を尋ね一緒にたこ焼きやホットケーキなどを作っている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な排泄支援を行っている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間・頻度・スタイル等個人によって様々な為、安心して安全な入浴ができるよう必要に応じた支援を行っている。		希望があればいつでも入浴できる体制を取っている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の居室が過ごしやすい環境にあるかを常に気を付けている。一人ひとりの生活時間・睡眠パターンを把握し声掛けや散歩など適度な運動や精神状態の安定を図り、安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や習い事を取り入れて興味のある方は参加している。又、畑仕事が好きな方は野菜作りを一緒に行う等、一人ひとりに合わせて色々な事等を計画しながら支援している。		音楽レクや大正琴等の練習を取り入れている。掃除・洗濯物の干し・洗濯物たたみ等を手伝ってもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者は小遣いを持ち自己管理をしている。やや管理に問題があると思われるも、家族の理解を得て少額程度は持てるようにし、一緒に買い物を楽しんでいる。		愁1回買い物日を決め、一緒に買い物を楽しんでいる。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周辺環境が良く、日常的に屋外の散歩などが楽しめるようになっている。又、花見や山菜取りなど季節に合わせて毎月数回は出かけるなどしている。又、外出を好まない利用者に対しては、苑庭での過ごし方を工夫している。		週に3回足湯等で気分転換を図る様にしている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	気候や季節に合わせて、初詣・桜見学・紅葉見学など、外出を皆さんに楽しんで頂いている。年間を通じて様々な所に行けるよう援助している。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった時は、対応しており家族からの電話の取り次ぎに、久々に話が出来る事を大変喜んでる。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の方の訪問が良くあっており、居室やホール等でゆっくりお茶を飲みながら、お話を頂けるように配慮している。帰りの際には、気軽に来ていただける様声掛けを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の身体的拘束や行動を制限する事を行わないよう、利用者の心身の安定を図る事に努め、日頃のケアをスタッフ間で振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを心掛けており、玄関の扉などは、野外の風を通す為開放している。テラスは自由に出入りでき、締め込めないケアを実践している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は一緒に掃除・食事の準備・レクリエーション等を行いながら状態の把握や見守りを行っている。夜間は2時間おきに訪室し、利用者の状態を確認し安全に配慮している。プライバシーにも十分に配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活を送る上では、不自然な環境は違和感があるため、家庭的な雰囲気や大事にしている。そのため、利用者1人ひとりに応じた対応に配慮している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書ひやり・はっとの記載は早急に取り組み原因・問題点・再発防止策の話し合いをしている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し応急手当の手順や対策を明記し、施設内にも置いているミーティング等でもひやりはっど報告書を中心に話し合い予防策を検討している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練の実施や行政区(地域)の協力体制、非常時の対応等を明記し、定期的に避難訓練なども実施している。又、職員の緊急時の連絡体制も確保できている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態変化を伴うリスクについては、随時家族に説明し報告を行い、また回避された場合にも報告している。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、顔色・活気・食事・排泄・睡眠状態等日々の生活の中での変化を見逃さない様になっている。体調の変化等は、家族や主治医等へ早急に報告している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、個々のケースに保管し、いつでも見られるようにしている。体調の変動時は、主治医と連携を図り、体調の安全管理に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々によってコントロールが難しく、水分を多めに取って貰ったり、食事・おやつなどに気配りを行い、体を動かすレクや散歩を行うなどしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを促し誘導・見守り・介助等を行っている。		義歯使用の方にポリドント消毒を進めている。口腔内のケアを週1回歯科医に往診してもらっている。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量・水分量を記入し、好き嫌いがある方に対して、献立の工夫を行っている。水分については、時期によって発汗や脱水のおそれがある為、多く摂って頂ける様声掛けを行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは予防接種を受け、嗽や手洗いを励行し、その他については、マニュアルを作成し、それを実践することで感染症を持ち込まない様努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限を守り、新鮮な食品を常に提供できる様管理している。調理器具は、洗浄に注意し乾燥機にて殺菌している。		
82 (1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	清潔感を大切にし、季節の花を植える等親しみやすい美化を心掛けている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者1人ひとりが落ち着いて暮らせるよう、化すくと利用者話し合いながら行っている。共有スペースについては、識を感じられる花や木をテーブルに飾るなどしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファや食卓を設置し、他者との交わりも踏まえながら、それぞれが居場所を確保し、自由に過ごす事が出来るよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品等を持ち込まれる事を積極的に促し、利用者が落ち着いて安心して過ごせるよう配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、居室や共有スペースの掃除・換気を行いエアコンは外気温と大きな差が出ない様設定し、きめ細かに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は出来るだけ、段差をなくし、廊下・トイレ・浴室には手摺を設置し、自立した生活が送れるよう工夫し配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人ひとりの出来ること出来ない事を把握し、出来ない部分を中心に声掛けし援助している。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキや苑庭にてづくりのベンチで、外の空気に触れながらゆっくり景色を眺めたり日向ぼっこをしたり、している。苑庭に、グランドゴルフ場、足湯を地域との交流スペース、畑があり利用者が楽しめるようになっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日がゆっくり過ごせるよう周囲の環境作りや、出来る事はやって頂けない事は一緒に行い、1人ひとりがその人らしく過ごせるようさん愛の理念を念頭におき、職員全員日々精進しています。美味しい食事をすばらしい自然環境の中、利用者と職員が楽しい会話の中で食事している風景は、安らぎと心地良さを感じてもらえます。また、足湯やグランドゴルフ場では、地域の方々との交流も活発に行なっています。